

各位

2023年10月16日
会社名 株式会社明豊エンタープライズ
代表者名 代表取締役会長 矢吹 満
(コード番号：8927 東証スタンダード)
問合せ先 取締役専務執行役員 安田 俊治
(TEL 03-5434-7653)

2023年7月期 通期 決算補足資料（質疑応答集）

この質疑応答集は、2023年9月14日に発表いたしました2023年7月期通期決算について、当社で想定していた質問と株主、投資家などの方々との質疑応答の主なものをまとめております。本開示は市場参加者のご理解を一層深めることを目的に、当社が自主的に実施するものです。皆様のご理解を賜ることを目的として一部内容・表現の加筆・修正を行っております。

Q1 2023年7月期のトップラインは結果として+36.6%の増収、しかし来期は+26.9%と約10%成長幅が低くなるのが気になります。2024年7月期の業績予想は保守的な見立てなのでしょう。

A 業績予想値は、数値公表時の仕入れ済み物件等を勘案しそれを積上げて見込んでいます。今後は売上の伸び率を織り込むような数値計画策定も意識してまいりたいと考えています。ただし、不動産を取り扱っていますので、引き渡し時期がズれる等により予想値と実績値に差異が出ることもあります。

Q2 協栄組と明豊エンジニアリングによる業績貢献はいつ頃から見込んでいますか。

A 協栄組は2024年7月期、明豊エンジニアリングは明豊プロパティーズから吸収分割した時点より業績は既に向上しています。

Q3 採用の強化等もあり営業利益率が前期比で低下したと思います。中長期的にはどの程度の利益率が適正とお考えですか。目標値等があれば教えてください。

A 将来の成長に向けた人員配置を進めていく中で、一般管理費が増大したことは事実です。今後は、成長の中で一般管理費を吸収してまいります。営業利益率は最低でも10%を維持したいと考えています。

Q4 例年下期に売上が集中する理由について教えてください。

A 当社の商品の開発期間は15か月程度です。下期に売上が偏重するのは売り上げの15か月前に仕入れた土地が多くあった結果です。今後は、このような偏りがないような仕入計画により事業推進する予定です。

【免責事項】当社が開示する資料に記載されている将来の業績見通し等に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社として将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は環境の変化などにより、実際の結果と異なる可能性があることに留意ください。